
Rune town

暁 礼加

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R u n e t o w n

【Nコード】

N 6 9 7 9 H

【作者名】

暁 礼加

【あらすじ】

R u n e 帝国で育った、ルーファとアシュレーは、仲間を集めながらアーカイドに戦いに行くというお話です。

プロローグ

僕はルーファ・アルターデ・シュタイン。
みんなからはルーファと呼ばれている。

「ルーファぁー♪」

（こっ：この声は…）

「何だよ…まだ朝だよ？」

「いーからっ！早く行くよー♪」

僕は引っ張られていった。

この子は僕の幼なじみのアシュレー・マルタ・ラリアルだ。

「っ：ちよっと…何するんだよ、アシュレー！？」

「王様からの呼び出しよっ！」

「またなの：？」

僕は無理矢理アシュレーに連れていかれた。

そして、僕とアシュレーはRune帝国の一番のお城、王様たちが
いる所へ向かった。

「アシュレー、なぜ僕たちが呼ばれたんだ？」

「そんなの、私だって知らないわよ…。」

こんなことをずっと言いながら、僕たちはお城に着いた。

「やっと来てくれたか。」

「あ、はい。遅くなっすみませんっ。」

「大丈夫だ。まあ、本題に入るとしよう。」

「はい。」

「で、話とは…？」

「そのこと何だが…ついこないだ、アーカイドで大きな事件があったのは知ってるかね？」

アーカイドとは、この帝国のずっと北にある大きな街だ。

「は、はい。」

「それが、今日…また起こったらしい。」

「そうなんですかっ？」

「それも…今回は大変なことになってるらしい。もしかすると、この帝国まで来るかもしれないと。」

「止めなくては…」

「そうだ。そこで、君たちがこの帝国の代表としてアーカイドに行ってもらったのだ。」

「そ、そうなんですかっ?!」

「急にで申し訳ないんだが…今日中には出発しなくてはならない。」

「でも、準備がまだ…」

「大丈夫だ。それは、もうしておる。」

「えっ？」

「それに、君たちだけではない。」

「そうなんですかっ？」

「僕も一緒に行きますよ。」

「カイルさん…。」

「2人だけでは危険ですからね。」

カイルさんとは、王様の元に仕える人、カイル・ターニア・ライルソンさんである。

「武器もちゃんと用意していますよ。では、そろそろ行きましょうか。」

「あっ…あのっ！」

「どうしたんです？アシュレーさん。」

「一応…お母様たちにもこのことを告げたいんです！駄目…ですか？」

「そうですね。お二人共、きちんと挨拶してから出発しましょう。」

「やったあ！ありがとうございます♪」

こうして、僕たちは一度、家に戻るようになった。

僕は家に入ってすぐに、お母様を呼んだ。

「ただいまー！ね、お母様…僕、王様にこの街の代表としてアーカイドに行くことになったんだ！」

タタタタッ———

お母様は走って来てくれた。

「ルーファ…そう、もうあなたはそんな年になったのね。」

「お母様…。僕、頑張ってくるからね。」

「ええ…頑張るってきなさい。家のことは大丈夫だから…。」

「うん！ありがとう…お母様。じゃ、行って来ます…！」

「あっ…ルーファ！ちよつと待ちなさい！」

「んっ？？」

「はい、これ。私が大事にしていたお守り。」

「え…いいの？」

「ええ。危険にあったとき…きっとこのお守りが助けてくれるわ。」

「お母様…ありがとう！では、行って来ます！」

お母様は、笑顔で手を振って僕を送り出してくれた。

僕は、お母様を後に、王様のところへ急いだ！

「おーい！ルーファーっ！」

「ごめんごめんっ！遅くなっちゃって。」

「いいですよ。ではそろそろ出発しなくては間に合いませんね。」

「カイルよ…必ず助けるのだよ。」

「はい、王様。では、行って参ります。」

僕たちは、こうしてRune帝国を出た。

プロローグ（後書き）

ルーファとアシュレー、そして、カイルさんの3人は無事、アーカイドにたどり着けるのか!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6979h/>

Rune town

2010年10月25日18時49分発行